

帆船神寶丸損害補償

1481

綴書類

取扱
定指

大正十四年十二月十日起案
起案者 捺印

第一課長

第二課長

第三課長

第四課長

第五課長

第六課長

第七課長

第八課長

第九課長

第十課長

第十一課長

第十二課長

第十三課長

(主務) 經理局長

政務次官

大臣

次官

參與官

副官

參事

法務局長

局長

軍務局長

第一課長

仰裁

大正十四年四月十二日淡路國江崎燈台沖ニ於テ軍艦

矢剌ト衝突兩船破碎流失ニ神寶凡並同船員創傷ノ甚ハス事件ニ關シ別紙ノ通損害補償方領出ニ付

官房第〇〇〇一號

正

重

軍令	艦政	法務	建築	經理	醫務	機關	軍需	教育	人事	軍務	官房	局部
		青								〇	青	受月日
												發月日

發付後起
案者捺印

主務局、部
取扱者捺印

起案部紙中

14.2.21

1482

審査の結果大記ノ通補償方至當ト被認候ニ付補償

シ可然哉

右仰 高裁

記

一金七千六百四拾七圓五拾錢

一金八百圓也

一金貳百五拾參圓九拾貳錢

計金八千七百陸圓四拾貳錢

神戶丸船主中村傳治ニ対ス補償額

同船長紙田萬作ニ対ス慰勞料

同船長及海軍共濟病院ニ入院費用
立替拂入海軍大佐山本正岐長ニ交付スル分

(終)

法務局長 局員

吉村 局

1910.20

横濱半葉十三行紙

軍務局長

經理局長

本海軍事件ハ全軍海軍則ニ責任アリトシテ最近是等
 軍令令解ニ於テ矢張り艦長山本上校長ハ罰金貳百圓
 首長ノ海軍海軍投情ハ重敵ハ罰金百圓ノ刑ヲ受ケ
 第一課長
 政令者ヲノ申立擧言額、始終、結果、不代等
 全軍令解ニ於テ、山本上校長ハ罰金貳百圓
 首長ノ海軍海軍投情ハ重敵ハ罰金百圓ノ刑ヲ受ケ
 第一課長
 政令者ヲノ申立擧言額、始終、結果、不代等
 全軍令解ニ於テ、山本上校長ハ罰金貳百圓
 首長ノ海軍海軍投情ハ重敵ハ罰金百圓ノ刑ヲ受ケ
 第一課長

海軍

1484

軍務局受
14.11.24
月 日

機造半葉十三行解紙

ノ台白之	於テモ	家徳修ノ	新境ニ	モ	下	別	或
鎮守務	長ノ	報告書	並ニ	致	書	者	例
等ニ	ヨリ	明	命	ナル	テ	有	損
ノ	意	傳	之	於	テ	別	一
モ	ノ	ト	書	キ	金	ハ	百
高	綱	田	萬	作	ノ	吳	海
武	百	五	拾	五	拾	五	拾
コ	ス	モ	ノ	右	之	左	大
思	科	ス					

海軍

軍

第三十三行

				用 金 庫	可 也	精 料	青 金	以 是
--	--	--	--	-------------	--------	--------	--------	--------

1485

紙 箋 附

大正 年 月 日

海軍省經理局

官費法席リカレハサレテ以テ本
件ハ賠償費ヨリ支出共済組
合病院(或ハ立替ハ松高)ニ支払
トナ



1486

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千四百九號

海軍大臣官房

大正十四年十月二十七日(火)

○ 雜 款

○ 判 決

判 決

佐賀縣佐賀市與賀町二百四十八番地土族
特務艦操津

海軍大佐從五位勳四等 山本土岐彦

明治十五年十一月二十六日生

茨城縣猿島郡古河町七百六十八番地土族
軍醫矢矧

海軍少佐從六位勳四等 清 水 巖

明治二十三年一月二十三日生

右兩名ニ對スル業務上過失艦船覆没及業務上過失傷害
被告事件審理ヲ遂ク判決スル左ノ如シ

主 文

被告土岐彦ヲ罰金二百圓ニ處ス

右罰金ヲ完納スルニト能ハサル時ハ十三日間勞役
場ニ留置ス

被告巖ヲ罰金百圓ニ處ス
右罰金ヲ完納スルニト能ハサル時ハ七日間勞役場
ニ留置ス

理 由

被告土岐彦ハ艦長トシテ被告巖ハ砲術長トシテ共ニ軍
艦矢矧ニ勤務中大正十四年四月十二日午後六時三十
分吳軍港ニ向ケ神戸港出港原速力ヲ十節トナシ出
港後間モナク機關ハ兩舷交通密閉排氣ノ状態ヲ以テ航
行セシカ明石瀬戸通過之際同日午後八時十分江崎燈臺
ヲ南二十九度西二千二百米ニ自ル地點ニ於テ針路ヲ北七
十度西ヨリ南七十三度西ニ變針シ定針スルヤ被告巖ハ
當直將校トシテ艦操縦ノ任務ヲ就キ被告土岐彦ト共ニ
艦橋ニ在リシカ其ノ際右舷燈首約十點距離約三千米ニ
於テ帆船神寶丸ノ紅燈一個ト其ノ左方艦首方向約五百
米及神寶丸ノ右方約一千米ニ各紅燈一個トヲ認メ被告
兩名ハ其ノ針路並速力ニ付當日航過中帆船ノ多クハ
並航ノ反航船ナリシニ艦長神寶丸其ノ他ノ船モ等シ
ク殆ント並航ニ近キ反航船ナルヲ以テ斷斷シテ約二
千米ニ接近スルニ及ビ速力極メテ低キ帆船ナルヘシ
ト判斷シタルノミニテ原速ノ儘原針路ヲ保テテ航進シ

海軍公報 (部内限) 第一四〇九號

大正十四年十月二十七日

三九五

ハ直ニ海軍部ニ於テ艦位測定中同八時十八分頃
 (艦位)ト令メテ開キタリ之ヨリ先變針時艦
 首測方約三半度ヲ地點ニ左右五百米位ノ間隔ヲ
 置キ船ヲ下移動セラル紅燈數個ヲ認メ居タレハ之
 ヲ回避スル令ナラント思ヒタルニ間モ無ク「右舷
 機停止」面舵ニ於テ令メテ開キタルニ依リ海軍
 部ヨリ頭ヲ出シ見タルニ艦首三四百米ニ觀船一雙
 アリテ艦首機ノ受テテアヲ間髪ヲ容セザルニ觀船ノ
 中機部ニ直角ニ衝突シテ面舵ヲ令メタル時ノ本
 艦ニ對テ手船トノ距離ハ餘程接近シ居タルモノト思
 惟ヌル旨ノ叙述記載

六、編四乃作艦隊ヲ分一航船神寶丸船長ニシテ同
 艦ヲ編リ大正十四年四月十日午後八時過明石海
 峽於神寶丸艦隊中衝突シテ面舵ヲ令メタル時ノ狀
 況ヲ述ベル船中前九時神寶丸艦隊ノ向ウ板越港ヲ
 出港後潮流急ニシテ無風甘クヨシ爲船中前七時五
 十分神寶丸艦隊ヲ追近シテ午後七時五分
 附近逆潮ヲ避テ艦ヲ後路燈臺ノ向方操輪中前七時
 十分神寶丸艦隊ニ大型汽船ニ數艘ヲ認メ追近セ
 及ビテ其ノ軍艦ヲ見テロルヲ避テ離相接近セ
 及ビテ其ノ軍艦ヲ見テロルヲ避テ離相接近セ
 及ビテ其ノ軍艦ヲ見テロルヲ避テ離相接近セ

マレテ創傷ヲ受ケタル旨ノ供述記載

一、診斷書ニ繩田萬作ハ大正十四年四月十三日海軍共
 濟組合吳病院ニ入院シタルカ同人ヲ診察スルニ左
 第三右第三第四第五第六第七肋骨骨折外傷ア
 リ入院治療ヲ要スル旨ノ記載

一、海軍共濟組合吳病院長ノ通知書ニ繩田萬作ハ大正
 十四年八月二十七日退院セシカ尙退院後ノ静養約
 二ヶ月ヲ要スル旨ノ記載

ヲ綜合考察シテ之ヲ認ムル証憑十分ナリ
 按スルニ明石海峡ノ如キ帆船又ハ漁舟ノ往來頻繁ニシ
 テ潮流急激ナル海面ニ於ケル夜間航行ノ如キハ深甚ノ
 注意ヲ拂ヒ以テ危險ノ防止ニ就キ遺漏ナキヲ期セサル
 可ラス然ルニ軍艦矢矧カ大正十四年四月十二日午後八
 時十分江崎燈光ヲ南二十九度西二千米ニ見ル地點ニ於
 テ針路ヲ北七十度西ヨリ南七十三度西ニ變針ヲ終リタ
 ル時既ニ右舷燈首約一點距離約三千米ニ神寶丸ノ紅燈
 一個ヲ認メタル被告等ハ特ニ彼我對勢ノ變化ニ對シテ
 不斷ノ注意ヲ拂ヒ最善ノ手段ヲ講シテ狀況ノ判斷ヲ最
 モ適確ナラシムル如ク努力スヘキニ漫然並航ノ反航船
 ナル可シト憤斷シ原速原針路ヲ以テ航行シ對船ニ對ス
 ル危險ヲ回避スル旨ノ供述記載又同午後八時
 十七分神寶丸カ左舷ノ前部ヲ右舷ノ左ニ横過セントス
 ルヲ認メタル時神寶丸カ右舷ノ前部ヲ左舷ノ右ニ横過
 縦上危險ノ發生ヲ豫メテ被告等ハ特ニ彼我對勢ノ變化
 右舷燈首約一點距離約三千米ニ見ル地點ニ於テ

海軍部編 (部内編) 第一〇九號 大正十四年四月二十七日

ノ處置手段ヲ講セズ殊ニ失却ハ後進ノ力量小ニシテ且旋回團ハ相當ニ大ナル外當時海峽ニ於テ不利ナル潮流ニ會シ加アルニ主機械ハ兩舷交通密閉排氣ナルヲ以テ咄咄ノ場合ノ運用ニハ大ニ警戒ヲ要スルモノアリ且夜間ニ於ケル距離ノ目測ハ困難ニシテ常ニ若干ノ誤差アルヲ免レサル旨狀等ニ鑑ミ此ノ場合行船上ニ一段ノ準備ト注意トヲ必要トセルニ拘ラス其ノ念慮ヲ缺キ危機既ニ切迫セルニ際シ面舵ヲ令シ次ヲ直ニ對船トシ距離非常ニ接近シ居ルヲ直覺シ極力回避ニ努力シタルモ時機既ニ遅ク由テ必要ナル措置ニ出ツルノ機ヲ失シタルハ孰レモ被告兩名ノ業務上ノ過失タルヲ免レサルナラシメ之ヲ法律ニ照スニ被告兩名ノ所爲中業務上過失艦船覆没ノ點ハ刑法第二百二十九條第二項ニ過失ニ因リ傷害ヲ與ヘ然ル點ハ同法第二百一十一條ニ該當スル處右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段同法第十條ヲ適用シ重キ業務上ノ過失艦船覆没罪ニ問ヒ罰金刑ヲ選擇シ被告土岐彦ヲ罰金二百圓ニ被告巖ヲ罰金百圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサル時ハ刑法第十八條ニ則リ被告土岐彦ヲ十日三日間被告巖ヲ七日間各勞務場ニ留置スヘキモノトス

仍而主文ノ如ク判決ス

檢察官海軍法務官瀧見茂樹干與

大正十四年九月十一日

泉鏡守府軍法會議

裁判長 判士海軍少將 岸井孝一
海軍法務官 樋口芳包
判士 海軍大佐 近藤直方
判士 海軍大佐 益子六彌
判士 海軍大佐 海津良太郎

二十日以前に於て、本官廳に於て、被告土岐彦、被告巖の業務上過失艦船覆没事件の審理が完了し、判決が下された。被告土岐彦は、罰金二百圓に、被告巖は、罰金百圓に處せられた。右罰金を完納しない場合は、刑法第十八條の規定に基づき、被告土岐彦は十日三日間、被告巖は七日間、各々勞務場に留置されることとなった。

本官廳の審理は、被告土岐彦、被告巖の業務上過失艦船覆没事件の審理が完了し、判決が下された。被告土岐彦は、罰金二百圓に、被告巖は、罰金百圓に處せられた。右罰金を完納しない場合は、刑法第十八條の規定に基づき、被告土岐彦は十日三日間、被告巖は七日間、各々勞務場に留置されることとなった。

郵務局

郵務局

郵務局

大正四年四月二十四日

山台符書敷部井廣村第卷の十五番宛

郵務局 郵務局長 宛

中村傳治

海軍大臣 財部 郵務局 宛

提出書類御致し件

左記書類一綴、上片送附、其系御日帳、上、然、件

取付相次渡

左記

一、書類

經理局
14.4.27
17

法務局
14.5.1
接受

四月廿七日
郵務局

1491

一 沈没壊滅の船舶に對する損害賠償額見積書

二 別項事業休業期間損害賠償額及其期間

三 積載石炭賠償に對する証書及年任状各々を索究

四 積載石炭賠償に對する証書及年任状各々を索究
船長等の責任を問ふ

五 積載石炭賠償に對する証書及年任状各々を索究
船主等の責任を問ふ

六 積載石炭賠償に對する証書及年任状各々を索究
船主等の責任を問ふ

右清款又 (付)

本仕状

山縣縣數郡并國村第百拾五番

中村傳治

右者左様限事奉仕ス

一 大正拾四年四月七日神事送東見初五日

堤山或拾貳方五斗并朝船神宮寶丸入

積載航行中津艇失却上衝突沈没

大損害賠償金計千四百七拾圓也

省下付款願作

大正拾四年四月或拾日



遺棄者保護扶助費

神農丸紅長住所父名元海技免状種類香辨

第幾の巻七五牌

丙種運転士

山縣省教部并關村等参考の松六番屋敷

田万作

別法海難報告者道、帆船補償丸衝突、際打撲

傷害入院和養中、也全承人、生活状態、無資産ニシ

テ左記本人借債外他、収入毛屋、元家庭ニハ事及ニ幼見

アリ何レモ尋常小學校通学中ナシ、其資質ニテモ窮スル状

態ナリ然レモ突知者度、道難、負傷入院重態ノ状ナシ

ハ忽チ收入杜絶シ、為目、其糊口、困窮増シ、後入院

中亦全快セシト、事不具不自由其難、就テ難キ場合及萬一

不祥事に陥る事遺族に餓死の境に陥ル事明ナリ依テ
以テ彼等(の)境に過ラザルニ特別ノ御診議ヲ以テ相与
ノ敬助林長相成度

左記

一月給額

四拾系

免火料カ入

ニ食費取立負携

ニ外ニケ年勤続毎ニ四拾円乃至五拾円宛ニ賞與ツシツアリ

右御願ス

山崎吉敷郎并廣村第三十五番屋敷

神寶丸取立

中村傳治

海軍大臣 財部 魁殿

山口縣吉敷郡井關村役場

証書

山口縣吉敷郡井關村々々々々々々々々々々々々

井關村長 廣九郎 長

織田 万作

右者右正十高年四月廿五日 就海中軍船失例ト

斷定時其傷シ而後加療中ノ願 當人休

當ニ他ノ家計困難ナキ事 廣相達無之事

ヲ證明ス

在正十四年四月廿五日

井關村長 河崎 島



海軍省 一三六 補

大正十五年七月六日

海軍省事務局

海軍少佐事務官 高 頼 治

山口縣吉敷郡井原村第百十五番地

中村傳治宛

帆船神宮丸 損害補償之関件

本年四月十日 接防仲之於軍艦失火ト漸次火

災者取所者帆船申置丸之損之出般者取

者者上臣宛 損害賠償 款 取 置 損 主 長 成 依 害

之 下 當 者 上 又 要 有 三 條 之 條 折 申 上 之 換 書 額 之 證

明 之 二 号 一 切 之 畫 取 一 條 之 相 者 官 署 之 新 取 畫

海 軍

機密半葉十三行紙

代金費領収書等)全部御返付相成度

可也書ス

是ノ款項並記載ノ持書親申金並其證紙

本ノ二封ニハ補償金ノ持書親申金並其證紙

各領自ニ付一之確實ニ領取申込候事

為身傷者繩田萬作殿ノ其後ノ経過書分以

及申渡候

(3)

機密事項十三行紙

海軍



歎願書

拙者所有帆船神寶丸総噸數七拾貳噸參
 貳也、丙種運轉士繩田高作ヲ舩長トシテ
 就職致サセ拙者モ乗組ニ過ル大正於四年四
 月^七日山口縣宇部市新川港ニ於テ石山炭ニ
 十二万五千斤ヲ搭載シ神戶港ニ向ケ航行中
 四月於是日午後七時頃天候險惡、為メ播
 磨國坂越港ニ避難シ翌十二日午前九時頃
 天候快晴ト為リタルニ依リ本港出帆神戶港
 へ航行、途午後八時二十分頃淡路國江崎
 燈臺西約四五丁ノ沖合ニ並航時ニ晴天無
 凡ニ多流潮、四位ナリ然ルニ本舩ノ左舷正

四廿七日
管野受

横ニ當リ一汽船ノ檣燈及緑燈ヲ表示シ進航
 スルヲ認メタルニ依リ念ノ為メ我船ノ左舷燈ヲ検シ
 タルニ明瞭ニ点火シテヲ認メ淡路沿岸ニ碇泊ノ
 目的ヲ以テ潮流ニ隨ヒ漂ヒツ、アリシ中汽船ハ其
 後進航シ来ル故大聲ヲ奏シ注意シタルニ拘ハ
 ラス本船ニ接近シテ右轉シタルニヤ俄カニ汽
 船ノ両舷燈ヲ認ムルヤ否ヤ瞬間時ニ本船ノ左
 舷後檣ノ後部ハ衝突シ本船ハ忽チ船体ヲ兩
 断セラレ船員一同海中ニ溺シ救助ヲ叫ビタルニ幸
 ニシテ附近航行中ノ山口縣吉敷郡東岐波村
 ノ帆船新吉丸(船長村田惣助在職)ノ為メニ
 救助セラル、ヤ相手船ヨリモ救助艇ヲ下シ救助

ニ来レリ相手船ハ帝國軍艦矢矧ニ有之衝突
 之際本船長纒田萬作ハ打撲傷ヲ受ケテ若
 向ノ為メ拙者附添ヒ軍艦ニ收容セラレ軍醫
 官ノ手當ヲ受ケ吳鎮守府ニ上陸直々ニ吳
 海軍共濟病院ニ收容セラレ目下加療中ニ有
 之候拙者ハ客年七月親戚知友ノ援助ヲ
 乞ヒ漸ク本船ヲ買得シ家族各名又船員ト
 シテ乗組石炭運送業ヲ営シ該收益ヲ以テ
 一家ノ生計ヲ立テシニ前陳ノ悲慘事ヲ惹起
 シ船体再用ノ見込無之拾集シタル破片ヲ賣放
 チ僅カニ金七百五拾二圓五拾弍ヲ手ニシタル
 次第加之船長纒田萬作ハ負傷シ同人ノ妻

吉野

及ヒ二名ノ小供アリテ是亦無財産ニシテ單ニ
船長ノ給料ヲ得テ一家ノ糊口ヲ凌キ居リ候ニ
計^四ラス負傷ノ上目下危険状態中ノ趣ニシテ
生死ノ未知ノ事ニ有之候モ斯カル悲惨事ニ
遭遇シ目下何レモ糊口ニ窮シ誠ニ困憊ノ極
日夜一同愁歎罷在候次第甚下恐縮前
記事情具申ニ及ヒ候間何卒特別ノ御詮
議ヲ以テ至急負傷者ノ家族ニ對スル御救助
ト目下ニ於テ分明セシ船舶及積荷等ニ對ス
ル損害ノ御賠償ヲ御キ度別紙損害見
積書ヲ添付シ以テ及歎願候也

大正於四年四月二十日

封 拜 尋 義 所 附 録

山縣吉敷郡井関村第三百拾五番屋敷
右帆船神寶丸船主中村傳治

海軍大臣 財部 彪 殿
閣下

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

地 頁 事 録 向 片 紙

1595

1595

沈没壊滅シタル船舶ニ對スル損害時

價見續書

一 金七千六百圓五拾五圓五拾五也

内譯

一 金參千〇五拾四也 帆船神寶丸船体及ヒニ

檣代

内 金壹百五拾七圓五拾五也

船体破片兵庫縣津名郡野島村岩井

一ノ八賣渡シタル代金ヲ控除ス

差引残正味金貳千八百九拾貳圓五拾五也

一 金七百五拾五圓也 帆七個代

一 金參百五拾四也 日本鎖五挺代西洋鎖

高見事

109083

山口縣志

五字書
九字書

鑽ニハル代

一金四百貳拾五匁也 株栢細四本 麻細一本

小細五本代

一金五百貳拾匁也 裝具諸道具代

一金貳千四百七拾五匁也 石炭三十五匁半代

一金貳百矢拾匁也 船長以下船員ノ年廻リ

及食料代

小以

外ニ損害金ヲ多クル迄休業間損害賠

事ニ 半候 横額別紙ノ通リニ矣

右之通リニ候也

別紙ノ業ニ

中村傳治

土手三三番地

18.3.33

1507

日本書紀

右證明候也

大正十四年四月廿五日

井原村長 河橋島一

山口縣吉
敷郡井原
村長印

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

81.71

1509

下関

船 舶 國 籍 證 書 寫

造船地	船名	船籍港	種類	符 信 字 號	番 號
愛媛縣越智郡湯浦村	神寶丸	山口縣吉敷郡井關村	帆船	B W Q D	貳五五八九
尺 度		推進器 及ノ種類 及ノ數	帆 船ノ 裝 備	船 質	進水ノ 年 月
量噸甲板上ニ於テ船首材ノ 前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長六四呎五〇 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ 外面ヨリ外面ニ至ル幅 貳參呎九〇 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ 舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深 八呎六〇			貳 檣 スク ナー	木	大正九年五月
者 有 所		積 量			
山口縣吉敷郡 井關村 第貳百伍五番屋敷 中村傳治		總噸數 七壹噸 貳拾 上甲板下 六壹噸 〇 貳 上甲板上載圍シタル場所 貳拾噸 〇 九 控除噸數 壹拾噸 七 拾 船員常用室 九噸 七 拾 機關室 其他場所 貳噸 〇 〇 登簿噸數 五八噸 六 〇			

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

大正九年八月 日

日本帝國

能本州遞信局印

謹明願

金貳千四百七拾五圓也

女 銀

東見初集九五の故焼山及貳拾貳萬五千斤

價格上壹万三付金九拾四圓

此金 貳千七百拾五圓

運賃上壹万三付金拾六圓

此金 貳千七百拾五圓

右文正千四百七拾五圓指者所付胡船神録

凡二横荷候奉御詔成被下後此故奉

頼修也

大正十四年四月

中村傳治

宇部市長 國吉亮之輔

右證明ス

大正十四年四月五日

宇部市長 國吉亮之輔



公印

神宮丸船便不積荷時價

見積証明紙

右抽若所右帆船神宮丸右右右右右右右
其右右江右等右右右右右右右右右右
ト積突此渡シマレ件付右右右右右右右
ハ積出シ渡船便不積荷見積証明紙
湖右右右右右右右右右右右右右右
下度右右右右右右右右右右右右右

云也

大正十一年七月廿日

去取郡井内右才五五音分取

中 お儀 池

小郡警定五署長

警部才緒光雄後

沈没場所管轄外付于當時情況不明た果トテ
別紙見積書託載如キテ沈没シタリトスル其時
價進船所又船乗業者付于調査スニ適當ナ時
價ト認ム

右證明ス 小郡警言察分署長

大正五年七月五日

警部 高橋光雄



神寶丸私價及積荷時價見積書

一金七兩八百五圓也

船体船具及積荷総價額

内金壹百五拾七圓五拾錢也

船体破片賣却代金

差引残額金七兩六百四拾七圓五拾錢也

総損害額

内譯明細

金額	名稱	摘要
金貳千四百八拾圓	船体	總屯數七拾壹屯 屯屯當金各拾五圓
五百七拾圓	櫓式本	表櫓代金各百圓 後櫓貳百七拾圓
七百五拾五圓	帆七個	表帆代金各百五拾圓 後帆代金貳百八拾圓
		ステー代金四拾圓
		シブスル代金各拾圓

本字制
本字行

〃	式百参拾円	必買手荷物食料品	取長、分七拾円 必買三人分百参拾円 米式康外膳食料 四拾円
〃	五百式拾円	装束具	
〃	四百式拾五円	網 貝	標格網(至大寸) 式本金百九拾六円 長六拾寸) 式本金百九拾六円 全右中古品 式本金九拾円
			西洋館(十貫二付拾四圓) 四拾七貫 四拾七円 船鏡ニハル(於賣二付八日賣額) 一、於四貫大拾六円
			五拾貫老燭 四拾円
			大於賣老燭 四拾八円 五拾五貫老燭 四拾四円
			七於賣老燭 五拾六円。大於賣老燭 四拾八円
〃	参百五拾円	錫及小錫鎖	日本錫(於賣二付金八日香) 五拾貫老燭 四拾八円
			トツプスルニ代金参拾円
			フレンジップスルニ代金参拾円

1517

〃 貳千四百七拾五円	積荷石炭代	東見初塊炭(老百斤) 貳千九拾四円 金貳千五百拾五円
〃 壹百五拾七円五拾文	船修船具破片賣柳代	兵庫縣津名郡野島村岩井茂一、賣柳、鎖、付控除入。
合計金七拾六百四拾七円 五拾銭		
右之通、相違無之候也		
大正四年七月十五日		
山口縣吉敷郡井筒村第百拾五番屋敷		
中村 傳 治		
海軍大臣財部 彪 殿		



別紙

營業休業期間損害賠償額及其期間

一 起算年月日 大正十四年四月十三日

二 終了年月日 船舶被害金受領營業復旧、日迄

三 金 港千八百五拾七系也 港千八百、損害賠償請求額

四 詳細

一 貳拾貳萬五千斤 沈没當時、石炭搭載量

一 金 拾 六 系也 港万斤、船スル 神戸港迄、運賃

一 金 参 多 百 六 拾 系也 港航海計上 収入額

一 金 老 千 六 百 系也 港平均船航海上ス



内 諸 費

(寛文年間計算)

一金 四百拾五兩也

松長 寛文年間、給料

一金 七百貳拾五兩也

衆員ノ食料費

一金 九拾五兩也

積荷ノ要スル
人夫便及牛敷料

一金 壹百四拾八兩也

掃帚ノ要スル
人夫便及牛敷料

一金 参ノ百兩也

帳簿日録具
補充費

計 金 壹千七百四拾五兩也

差引 純益 金 壹千八百五拾七兩也

(註) 衆員四名、舟長一人、雇入ノヒト三名、一家親子ノヒ

右 請 求 ス





大正拾四年四月二十日

山形縣吉敷郡井関村茅三乃拾五番屋敷

右松神寶丸紙主

中村傳治



海軍大臣 野村 彪 殿

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1522

海軍省

法務局

第一課

帆船神寶丸損害賠償ニ関ス
ル歎願書

大正十四年四月十二日拙者所有帆
船神寶丸淡路沖ニ於テ軍艦夫
士ト衝突ノ件ニ関シ今年四月ニ
十日附テ以テ損害賠償歎願書提
出七月六日海法第一三六號ヲ以テ
海軍省法務局ヨリ申出損害額ニ
對スル証明書類ト同時ニ船長縄田
萬作ノ負傷経過書提出方御下余
相成七月十四日付テ以テ提出致置候
慶其後今以何分ノ御下余無之畏



キニ困難ノ事情詳細上申候通リ
誠ニ困憊罷在候次第ニ付御多端
ノ御申甚々奉恐縮候得共何卒
特別ノ御詮議ヲ以テ至急損害御
補償被成下度重テ及歎願候也

大正十四年十月二十七日

小呂縣吉敷郡井関村茅三百十五
番屋敷

右帆船神寶丸船主

中村傳治



海軍大臣財部彪殿

1525

海法第一三六號

去ル本年七月七日附帆船神寶丸ニ関スル御下命ニ
依ル証明書及附属書類別表、如ク提出致候間至急
御調査被成下度此段奉懇願候
尚ホ書類未整、モ、モ有之候得共船舶沈没、際殆
シド流失仕候間此段御諒察被下度候
敬白

添附書類

一 神寶丸船價及積荷時價見積書 志 通

右井関村長証明附

一 神寶丸船價及積荷時價見積書 志 通

右小郡警察署証明附

一 神寶丸新造見積書

志通

右造船主黒川又平、分

一 當時新造船付船具見積参考書

志通

右提出者中村傳治、分

一 積荷石炭價格及積入証明書

志通

右宇部市長証明附

一 神寶丸買入領収書

志通

右造船主黒川又平、分

一 神寶丸買入後造作工事書類

志通

右岩崎藤一及前田太作、分

一 全附属中村松太郎戸籍抄本

志通

右井関村長証明

一神寶丸船具帆具買入領収証

式通

右前田小市ノ分

一神寶丸造作工事書類

右ノ通

右阿知須造船所証明碇中孫太郎ノ分

一神寶丸元船長繩田萬作病況書

右ノ通

右ノ通リ提出候也

大正拾四年七月廿四日

山口縣吉敷郡井関村第百拾五番屋敷

提出者神寶丸船主 中村傳治



海軍司法事務官

高 頼治殿 貴下

